

# 志賀高原のニホンザルⅢ

## 横湯川流域におけるオスザルの離群と入群(その3)

—— 横湯川流域のオスザルの動態 ——

好 廣 眞 一  
常 田 英 士

### ▶ キーワード

野生群、餌付け群、オスザル、  
同行、ハナレザル

### ▼ 要 旨

志賀高原横湯川流域の、餌付けされたA群以外の野生群、B<sub>2</sub>群、C群とオスザルのかかわりを記載し、A群との違いを考えた。A群ではオトナオス間の直線的順位関係が明確で、威圧的に接近したオトナオスを複数のオスが連合して攻撃するため、従順的に転じた上で、オス順位の最下位でしか入群できない。しかしB<sub>2</sub>群、C群では、ワカオスはもとより、オトナオスも容易に同行し、B<sub>2</sub>群では、A群のオトナオスがいきなり1位オスとして入群する群れの乗っとりが2例続いた。

横湯川流域におけるオスザルの動態を、A群、野生群、およびハナレザル、オスグループを含めて述べた。

### 1. はじめに

筆者らは、好廣・常田(1976)の記載を整理して、「志賀高原のニホンザルⅡ 横湯川流域におけるオスザルの離群と入群(その2) 志賀A群をめぐるオスザルの動態」(好廣・常田、2011)を発表した。この中で、1962年、地獄谷で餌付けされた志賀A群の1973年までの資料を、オスの成長および性成熟と、群れ内および群れ間の個体間関係から分析した。年周期的変化を毎年繰り返しているようでありながら、11年間を通して見ると、調査期間の後期にオスザルの離群・

入群・成長・他群への接近といった変化が加速していることを指摘した。

これに続いて本稿では、①1962–1975年までの横湯川流域における野生群とオスザルとのかかわりを記載し、A群との違いを見る。②群れ外でのオスザルの観察例に触れ、A群を含めた横湯川流域のオスザルの動態を述べてみる。

## 2. 横湯川流域における、群れの分布と個体数の変化

和田 (1964)、鈴木他 (1975)、原 (1971) によると、1962年11月–1963年5月の横湯川流域には、A、B、Cの3群が生息していた (図1)。個体数は、A群22頭 (1963年1月)、B群76頭 +  $\alpha$  で約85頭 (1963年2月23日)、C群15頭 (1963年3月24日) であった。

A群は、1963年1月の餌付け後個体数が急増し、1973年7月には81頭になった (常田・原、1975)。B群は1967–1968年、1966–1969年の2度にわたって少なくとも26–27頭が減少し、1969年には50頭ほどのB<sub>1</sub>群と20頭ほどのB<sub>2</sub>群に分裂していた (鈴木他、1975)。C群は、1967年に17頭が観察された (鈴木他、1975)。この頃まで、A群以外の群れの識別は、個体識別ではなく、群れのサイズと、性年齢構成、観察された場所で行われていた。

A群以外の群れが同定されたきっかけは、1969年8月29日の、常田・鈴木によるB<sub>2</sub>群の観察であった (鈴木他、1975)。群れ内に、A群出身の3頭が発見され、うち1頭は中心オスであり、他の2頭はA群出自の6歳オスと判明したのだ。この年のうちに、常田によりB<sub>1</sub>群とC群にもA群出自のオスが発見され、個体識別に基づいてB<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、Cの3群が同定された。これらのうち個体数50頭ほどのB<sub>1</sub>群は、1969年9月18日の観察を最後に横湯川流域で観察されなくなり、1970年にも発見できなかった。1971年3月に北東に隣接する雑魚川流域で52頭 +  $\alpha$  の大き

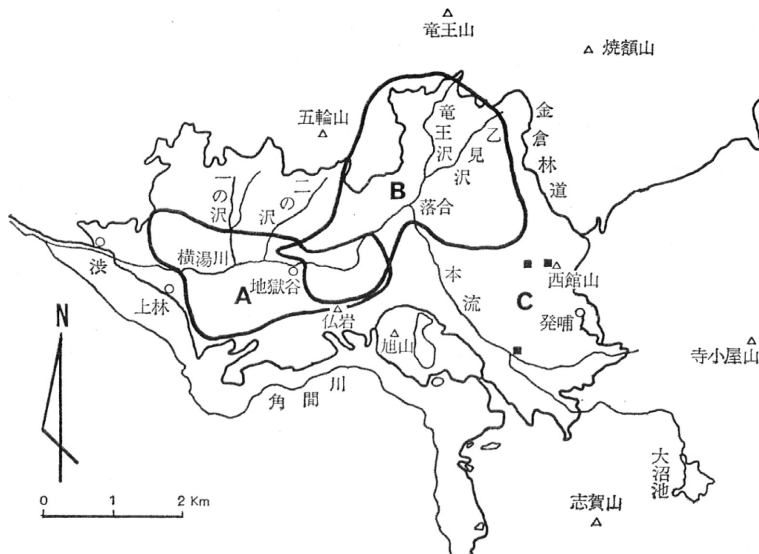


図1 横湯川流域のニホンザル群の分布 (1962–63年)

志賀 A群22頭、B群約85頭、C群15頭 (1963年) が生息していた。A群は1962年4月–1963年1月に餌付けされた



- 4) 個体識別が、まったくあるいは不十分にしかできていない段階での観察がある。また、A群出身、A群経過の個体は人に慣れていることもあって観察の機会が多く、それ以外のサルとの観察回数の差をより大きくしている。
- 5) 観察時間数の少なさにより、個体間関係の観察精度は、A群に比べはるかに劣る。A群の資料から、入群を、(イ)群れの遊動に同行し、(ロ)オスの順位系列に位置付けられる、の2点で定義したが、観察精度が劣るため、A群以外の群れにおいては(イ)は知りえても(ロ)については分からない場合も多い。

群れが識別された1969年8月29日の以前と以後に分けて述べることにする。本稿に出てくる地名を、図3および図4にあげておく。

#### 4. 1969年8月28日以前の、A群以外の群れにおける観察

この時期には、個体識別されていたのは、A群出身またはA群経過の個体のみで、彼らが群れで観察されたすべての例を表1に示す。群れ外での観察は、8で扱う。

シロ、ムサシ、シガ、モンの4頭が観察されている。シロは、1965年秋、個体数40-50頭の

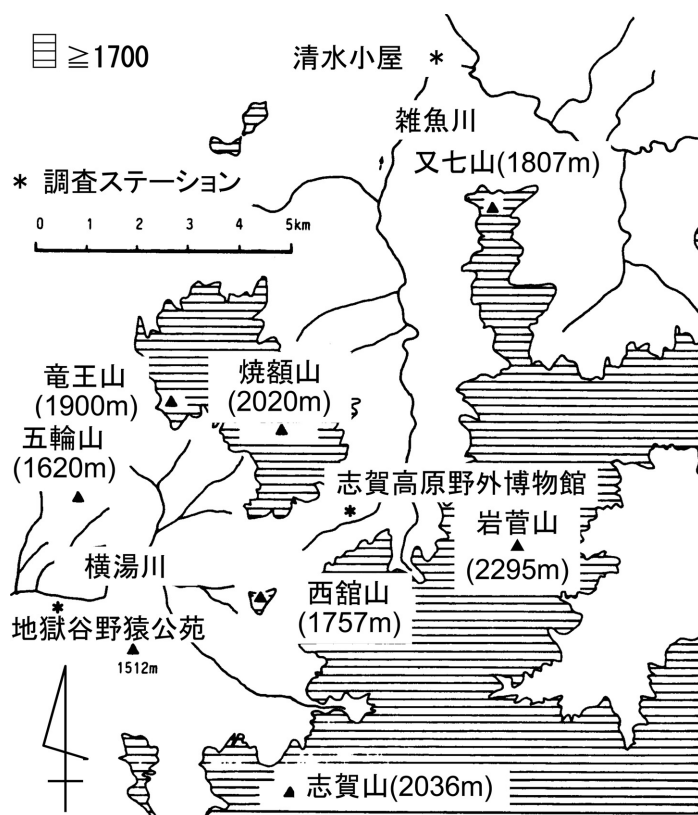


図3 調査地：上信越山岳地域

調査は横湯川流域、雑魚川流域、および志賀高原で行われた。Yoshihiro (1985) を改変

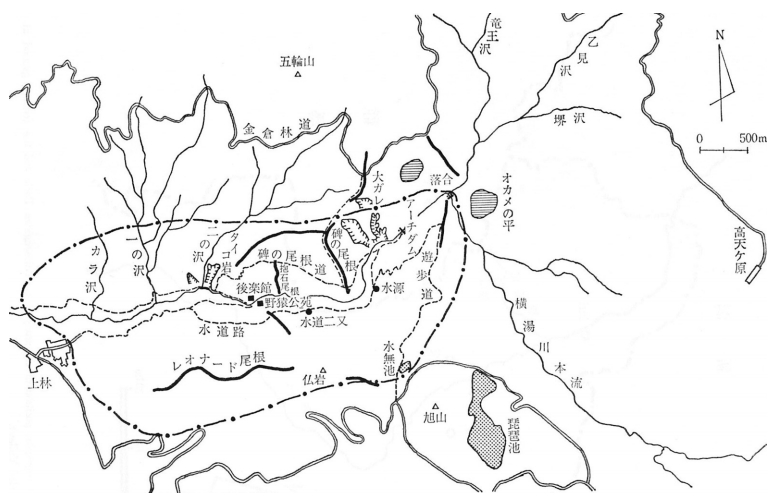


図4 横湯川流域の地名と志賀A群の遊動域(1969-73年)

・— 志賀A群の遊動域を示す。好廣・常田(2011年)を改変

表1 横湯川流域のA群以外の群れにおける個体識別されたオスの観察例(1969年8月28日以前)

| 観察日        | 観察場所    | 観察個体数 | 識別されたオス*       | 観察者   |
|------------|---------|-------|----------------|-------|
| 1965.11.19 | 餌場対岸    | 40~50 | シロ(12)、ムサシ(17) | 山本、原  |
| 1966.10.5  | 抱石尾根    | 50以上  | シガ(4)          | 山本    |
| 1967.4.8   | アーチダム   | 10    | シガ             | 山本    |
| 4.21       | 水源と出鼻の間 | 4     | シガ、シロ          | 常田    |
| 10.4       |         | 20-30 | シガ(5)          | 原     |
| 10.5       | 水源の下流   | 40-50 | シガ             | 山本    |
| 11.22      | 抱石尾根    | 11    | シガ、モン(4)       | 常田    |
| 1968.10.30 | 抱石尾根    | 20-30 | シガ(6)          | 常田    |
| 31         | 〃       |       | シガ、ポバイ(7)?     | 常田・川中 |

\* いずれもA群出身ないしA群経過 ( )内は年齢 シロ、ムサシは推定年齢

群れにいたが、個体数から判断してB群またはB<sub>1</sub>群だと思われる。

シガは、1966年10月に50頭以上、1967年10月に40-50頭の群れで観察されている。1967年4月にシガの属していた10頭および4頭のサルの集まりは、1966年および1967年と同じ群れの一部であるかもしれない。彼は1968年秋には20-30頭の群れ(C群か、それとも他群かは不明)で、1969年秋には個体数17頭のC群で観察され(表16)、1967年秋から1969年秋の間に一度または二度、野生群の間を移動した。

1967年11月に、モンとシガが同じ群れで発見されている。モンは、このときにはA群に戻ったが、再びA群を離れ、1969年8-11月にはB<sub>2</sub>群中で観察された(表3)。彼は、A群以外の1または2群に同行・入群した。

## 5. B<sub>2</sub>群（1969年8月29日以後）

B<sub>2</sub>群の個体数、構成の観察例を表2に示す。

表3に、B<sub>2</sub>群の観察のうち、オスを個体識別した例をすべてあげ、識別したオスの数と個体名を示した。この表から、B<sub>2</sub>群をめぐる個体ごとの去就を整理すると、図5のようになる。1969年8月29日から1973年12月15日までの間にB<sub>2</sub>群に関係してきた3歳以上のオスは、表4に示すように総数21-22頭で、A群出身またはA群経過のものが10頭と半数近くを占め、うち1頭はA群出身でC群を経過してB<sub>2</sub>群に加わったものである。

### (1) 同行しはじめた年齢と季節

図5と好廣・常田（2011）のA群のオスに関する離群の資料から、B<sub>2</sub>群に同行しはじめた時を推定したのが表5である。B<sub>2</sub>群外からきてB<sub>2</sub>群に同行したことの確実な個体は13頭おり、同行は22例見られた。このうち入群が確認されたのは10頭である。また接近のみのものが1頭2例観察された。

表5よりB<sub>2</sub>群へ同行しはじめたオスの年齢を整理すると、表6のようになる。3-5歳のワカオスが半数ほどを占め、7-10歳の若いオトナオスは少く、11歳以上の成熟オスも半数近い。

表2 B<sub>2</sub>群の個体数と構成

| 年月日    | 70.3.21-23 | 71.2.25-28 | 72.3.1 | 72.11 | 73.12.15 | 74.4 |
|--------|------------|------------|--------|-------|----------|------|
| 観察者    | 常田・好廣      | 常田         | 常田     | 常田    | 好廣       | 好廣   |
| オトナメス  | 4          | 7          | 8      | 8     | 8        | 6    |
| オトナオス  | 4          | 4          | 8      | 8     | 8        | 6    |
| オトナ性不明 | 4          |            |        |       |          |      |
| 1-6歳   | 3          | 8          | 6      | 6     | 7        | 7    |
| 0歳     | 2          | 2          | 2      | 1     | 3        | 1    |
| 計      | 17         | 21         | 24     | 23    | 26       | 20   |

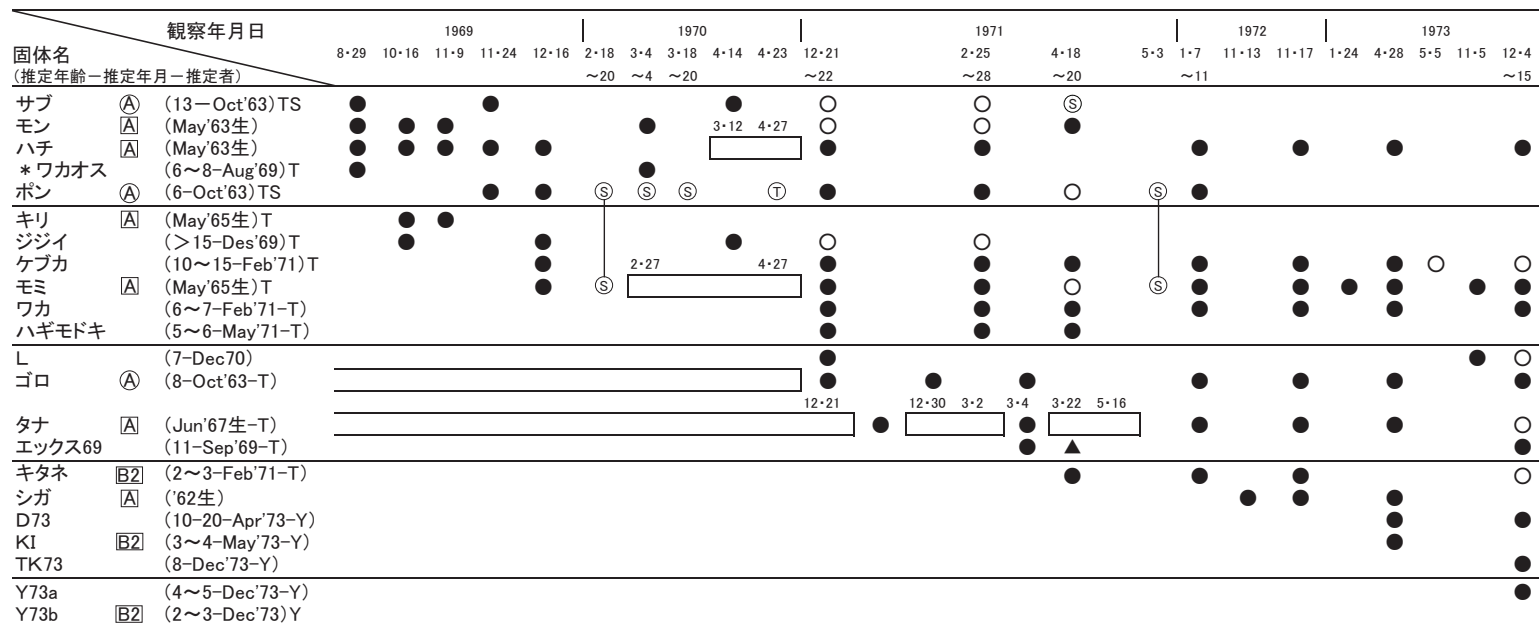
B<sub>2</sub>群という群れが識別されて以降1973年末までに全個体が把握されたすべてをあげた

表4 B<sub>2</sub>群に関係してきたオスの履歴（1973年12月に3歳以上のもの）

| 履歴                 | 個体数   |
|--------------------|-------|
| B <sub>2</sub> 群出自 | 3     |
| A群出身               | 5     |
| A群出身C群経過           | 1     |
| A群経過               | 4     |
| A群出身、経過以外          | 8-9   |
| 計                  | 21-22 |

表3 B<sub>2</sub>群における個体識別されたオスの観察例（1969年8月29日－1973年12月31日）

| 観察日          | 観察場所      | 観察<br>個体数 | 識別されたオス（推定年齢）                          | 観察者   |
|--------------|-----------|-----------|----------------------------------------|-------|
| 1969.8.29    | 金倉林道堺沢頭   | 15        | サブ、ハチ、モン、♂(6-8)                        | 常田・鈴木 |
| 10.16        | 二の沢       |           | モン、ハチ、ボン、キリ                            | 常田    |
| 11.9         |           | 6         | ボン、ハチ、モン                               | 〃     |
| 11.24        | 水道路ガレの実   | 9         | サブ、ボン、ハチ                               | 原・伊藤  |
| 12.16        | 〃 第1タンク   | 13-14     | サブ、ジジイ、ケブカ、ボン、ハチ、モミ                    | 常田    |
| 1970.3.3-4   | 落合一出鼻     |           | ボン、ハチ                                  | 常田・好廣 |
| 4.4          |           | 10        | サブ、ジジイ                                 |       |
| 12.20        | 大ガレー碑の尾根  |           | ボン、ハチ、モミ                               | 常田    |
| 21           |           | 19        | ゴロ、ケブカ、ボン、ハチ、L(ワカらしい)、ハギモドキ、モミ         | 〃     |
| 22           |           | 9         | ボン、ハチ、モミ、タナ                            | 〃     |
| 1971.2.25-28 |           | 21        | ゴロ、ケブカ、ボン、ハチ、ワカ、ハギモドキ、モミ               | 〃     |
| 3.31         | 抱石        |           | ゴロ                                     | 〃     |
| 4.18         |           | 10        | ゴロ、ケブカ、ハチ、ワカらしい、ハギモドキ                  | 好廣    |
| 19           |           | 14        | ゴロ、ケブカ、ハチ、ワカオス、キタネ(2-3)                | 〃     |
| 20           | 水源        | 5         | ハチ                                     | 〃     |
| 1972.1.7     | 出鼻        | 18        | ゴロ、ケブカ、ボン、ハチ、ワカ、モミ、タナ                  | 好廣・常田 |
| 1.11         | 〃         | 9         | ゴロ、ボン、ハチ、モミ、タナ、♂(2-3)                  | 好廣    |
| 3.1          |           |           |                                        | 常田    |
| 11.13        |           |           | シガ                                     | 〃     |
| 11.17        | 金倉林道      | 13        | ゴロ、ケブカ、シガ、ハチ、ワカ、モミ、タナ、黒い♂(3-4)         | 好廣    |
| 27           | 落合右岸尾根    |           | ゴロ、モミ、♂(3-4・黒い。キタネらしい)                 | 〃     |
| 1973.1.24    | 抱石        | 7         | モミ、♂(4)                                | 好廣・   |
| 3.14         |           | 4         | ボン、他3頭                                 |       |
| 4.28         | 落合        | 20        | ゴロ、ケブカ、シガ、タナ、D73(7-8、ハナレザル、ワカらしい)、ケブカ? | 好廣    |
| 4.30         | 〃 ~遊歩道    | 19        | シガ、モミ、KI(4-5・きいろっばい)、♂(10-15)          | 〃     |
| 5.1          | 出鼻尾根      | 10        | ゴロ、ハチ、ワカ、モミ、タナ、♂(2-3)、♂(2)             | 〃     |
| 2            | 水源        | 6         | ゴロ、シガ、モミ                               | 〃     |
| 3            | 遊歩道、出鼻~落合 | 13        | ゴロ、シガ、ハチ、♂(8、どんぐり目)、タナ、♂(4-5)          | 〃     |
| 4            | 宗助平       | 12        | ゴロ                                     | 〃     |
| 5            | 宗助平       | 4         | ゴロ、シガ、モミ、タナ                            | 〃     |
| 11.5         | アーチダム     | 5         | ゴロ、モミ?                                 | 〃     |
| 12.4         | ホンクボ道上    | 10        | モミ、タナ                                  | 好廣・常田 |
| 7            | 碑の尾根西     | 9         | シガ?、ハチ                                 | 好廣    |
| 1973.12.8    | 水源川底      | 20        | シガ、モミ                                  | 〃     |
| 9            | 出鼻        | 9         | Ad♂、♂(10くらい)、ワカ?、ハチ、モミ、♂(4)            | 〃     |
| 11           | 抱石上流      | 11        | TK73(8)、ワカ、ハチ、モミ、タナ                    | 好廣・油田 |
| 12           | 二の沢       |           | シガ、モミ                                  | 好廣・常田 |
| 13           | 〃         | 3         | ハチ、タナ                                  | 好廣    |
| 15           | 落合        | 26        | Ad、(Ad)、シガ、ワカ、ハチ、モミ、タナ、Y73a(4-5)       | 〃     |



\* L と同一個体かもしれない

● B<sub>2</sub>群にいる      ○ B<sub>2</sub>群にいない

▲ B<sub>2</sub>群に接近

Ⓐ A 群経過

Ⓐ A 群出身

Ⓑ B<sub>2</sub> 群出自 (推定)

Ⓐ A 群にいる      | 一緒に行動

Ⓐ B<sub>2</sub> 群以外の群れで観察

Ⓐ ハナレザルでいるのを確認

S: 鈴木      T: 常田      Y: 好廣

図5 B<sub>2</sub>群の個体識別されたオスザルの観察例

表5 オスザルがB<sub>2</sub>群に同行しはじめた時と年齢

| 個体名     | 年月日                   | 備考               | 年齢      |
|---------|-----------------------|------------------|---------|
| A 群出身   |                       |                  |         |
| モン      | ▲1968.10.7－1969.8.29  | 1968.10.6        |         |
| ◎ハチ     | ○1969.4.22－1969.8.29  | 1969.4.21        |         |
| ◎ク      | △1970.4.28            | 1970.4.27        | 7       |
| キリ      | ●1969.10.16           | 1969.4.15までA群在籍  | 4       |
| ク       | ●1969.12.2            | 1969.12.1までA群在籍  | 4       |
| ◎モミ     | ●1969.12.5－16         | 1969.12.4までA群在籍  | 4       |
| ◎ク      | △1970.4.28            | 1970.4.27までA群在籍  | 5       |
| タナ      | ●1970.12.21           | 1970.12.21までA群在籍 | 3       |
| ク       | ○1971.3.3             | 1971.3.2までA群在籍   | 3       |
| ◎ク      | △1971.5.17            | おそらく5.17かその直後    | 4       |
| ◎シガ     | ●1972.9－11.13         |                  | 10      |
| A 群経過   |                       |                  |         |
| ◎サブ     | 1968.5.8－1969.8.28    | おそらく1968.5.8に近い  | 〈18－19〉 |
| ボン      | 1969.7.21－10.16       | おそらく7.21に近い      | 〈12〉    |
| ◎ク      | 1970.4.23－12.21       |                  | 〈13〉    |
| ◎ク      | 1971.5.3－1972.1.7     |                  | 〈14〉    |
| ◎ゴロ     | 1971.5.3－12.21        | おそらく5.3に近い       | 〈15〉    |
| 出身群不明   |                       |                  |         |
| Y73a    | 1973.5－12             |                  | 〈4－5〉   |
| D73     | △1972.11.17－1973.4.28 | おそらく1973年4月かその直後 | 〈10－20〉 |
| TK73    | ▲1973.5.5－12.12       | おそらく1973年の交尾期    | 〈8〉     |
| *エックス69 | ○1972.3.2             |                  | 〈13〉    |
| *ク      | ○1971.4.              |                  | 〈12〉    |

計13頭22例

◎入群確認      ●交尾期（確認）      ○非交尾期（確認）      年齢の〈 〉は推定したもの  
 \*接近のみ      △交尾期（推定）      ▲非交尾期（推定）      （注1）A群に接近したB<sub>2</sub>群に同行

表6 オスザルがB<sub>2</sub>群に同行しはじめた年齢

| 年齢層（年齢）       | 頭数    | 例数    |
|---------------|-------|-------|
| ワカオス（3－6）     | 5     | 10    |
| 若いオトナオス（7－10） | 2     | 2     |
| 成熟オス（11以上）    | 5(1)  | 8(2)  |
| 計             | 13(1) | 21(2) |

（ ）はそのうち接近しただけのもの数

表7 オスザルがB<sub>2</sub>群に同行しはじめた季節（のべ）

| 年齢層   | 交尾期 | 非交尾期 | 計  |
|-------|-----|------|----|
| ワカオス  | 5   | 5    | 10 |
| オトナオス | 3   | 3    | 6  |
| 計     | 8   | 8    | 16 |

同行しはじめた季節が分かるのは推定を含め15例ある（表7）。このうちオトナオスはシガとTK73だけでともに交尾期である。ワカオスの入群は両期に見られ、どちらかの時期が多いとはいえない。

## (2) 入群したオスの順位

入群直後の順位がわかるのは3頭いる。A群においては、新しく入群した個体は常にオスの順位系列の最下位に位置付けられた。B<sub>2</sub>群においても、タナ、シガは入群の際にいずれも最下位に位置付けられた。とくにシガは、タナより5歳年上にもかかわらず、1年余り早く入群していたタナの下位となった。この他、ハチ、モミも下位であった。B<sub>2</sub>群でも、一般にはA群と同じ、新入群者はオスの順位系列の最下位の原則があてはまる。

ところが、A群と違ってB<sub>2</sub>群では、この原則に反する例が見られた。サブとゴロの例で入群後最初の観察のとき、ゴロはオスの順位の第1位であり、サブもおそらく第1位であった。両者はいきなり第1位のオスとして入群したものと考えられる。

B<sub>2</sub>群のオス間にみられた優劣の変化に、もとと同じ群れにいたことによる結び付きの強さが影響したと思われる例がある。1970年12月にはケブカはハチより、ワカはモミよりそれぞれ優位であったが、1972年1月には、ハチがケブカより、1974年12月にはモミがワカより優位となり、いずれも優劣が逆転した。ハチは、A群にいた際ゴロのそばによくいたが、B<sub>2</sub>群においても両者は近くにいることが多かった。また、B<sub>2</sub>群の観察において、ハチ、モミ、タナ（いずれもA群出身）は、近くにいることが多かった。上の優劣の逆転には、ハチの場合はゴロと、モミの場合はハチとの関係の深さが影響したと思われる。

## (3) 入群・同行・接近したオスと、群れのサルとの関係

入群直後と思われる時、および接近・同行時のB<sub>2</sub>群のサルとの関係に関する観察例を表8にあげる。

ワカオスはすべて従順に振舞い、オス（とくにA群出身、A群経過個体）の近くを遊動している。B<sub>2</sub>群のサルに攻撃された例は観察されなかった。

接近・同行したのは約8歳以上のオスに限られ、従順的に接近したものはない。威圧的に接近したエックス69に対しては、B<sub>2</sub>群の高位のオスたちが気にしてにらみ合いが見られた（1971年4月）。しかし、ワカオスの中には彼をグルーミングするものがいた（1971年3月2日、キタネ）。D73は、移動時には群れの最後尾に他個体と少し離れており、採食時には下位オスと同じ木で採食した。威圧的といっても、ことさらB<sub>2</sub>群のサルをおどしつけはせず、B<sub>2</sub>群のサルにも、彼への攻撃は見られなかった。

1973年12月に同行した2頭のうち、TK73は、12月11日の観察によると群れの他のオスすべてより優位であるように振舞い、発情したメス2頭が彼の後をついて回り、それ以外のメスたちも彼の動きを気にして動いていた。12月9日には、A群出身でない見なれぬオスが、メスとコンソートしていたが、TK73の可能性が高い。彼は1974年4月にはB<sub>2</sub>群におらず、交尾期だけ同行したものと思われる。1位オスだったゴロが、B<sub>2</sub>群よりいなくなり、他に有力なオスが

表8 B<sub>2</sub>群に入群・同行・接近したオスの直後の行動、およびB<sub>2</sub>のサルの反応

| 個体名(年齢)     | 観察日             | 入群・接近後の日数 | 入群・接近オスの行動と群れのサルの対応          |
|-------------|-----------------|-----------|------------------------------|
| 入群          |                 |           |                              |
| キリ (4)      | 1969.10.16      | 1         | ○ A 群出身および A 群経過オスのあとをつく     |
| 〃 (4)       | 1969.12.2       | 1         | ○ 〃                          |
| モミ (5)      | 1970.12.16      | 11        | ○ 〃                          |
| タナ (3)      | 1970.12.22      | 1         | ○ 〃                          |
| 〃 (3)       | 1971.3.4        | 2         | ○ 〃                          |
|             |                 |           |                              |
| 接近・同行       |                 |           |                              |
| *エックス69(11) | 1971.3.2        | 1         | ●キタネにグルーミングしてもらう             |
| 〃 (11)      | 1971.4.19       | 1         | ●ゴロ、ハチとにらみあう                 |
| D73 (10-20) | 1973.4.28、4.30  | 不明        | ●下位のオスたちのそばにいか、一匹離れている       |
| TK73 (8)    | 1973.12.9、12.11 | 不明        | ●すべてのオスより優位らしい<br>複数の発情メスが追隨 |

\* 接近のみ ○ 従順的 ● 威圧的

ない条件下で、あたかも交尾期だけ 1 位オスが加わったようであった。

非交尾期でもメスの追従が確認されたオスはサブ、ジジイ、ケブカ、ゴロで、A 群から入群したオス 2 頭が含まれている。ハチにも 1974 年春からはメスが追従しはじめた。他方、B<sub>2</sub>群に入群したオスのうち、ポン、タナ、シガには、調査期間中メスの追従が見られなかった。とくにタナ、シガは交尾期にもメスとの接触が確認されなかった（観察時間の少なさのせいかもしれない）。

#### (4) 離群の数と年齢・時期

図 2 と、好廣・常田 (2011)、A 群におけるワカオスの短期不在の資料をもとにして、オスが B<sub>2</sub>群からいなくなった時期を推定したのが表 9 である。いなくなった後で観察されたオスは少なく、離群の他に死亡も含んでいると思われる。全部で 14 頭 20 例あり、その履歴は表 10 の通りである。そのうち 1 頭 1 例は、B<sub>2</sub>群出自のワカオス、8 頭 14 例が A 群出自・出身オスであり、A 群と B<sub>2</sub>群以外の子のオスも、5 頭 5 例あった。

離群（死亡を含む）時の年齢を表 11 に示す。入群と同じく、3-6 歳のワカオスが半数ほどを占め、7-10 歳の若いオトナオスは少く、11 歳以上の成熟オスが半数近い。入群・離群とも、7-10 歳の年齢層のものが少ないのが特徴的である。

表 9 から、離群の時期が分かるのは、8 頭 12 例ある。内訳を表 12 に示す。オトナオスにおいて交尾期の離群が非交尾期に比べ少なくない点で A 群と異なるように見えるが、資料が少なく、また死亡が含まれているかもしれないため断定できない。

1973 年 7 月で 3 歳以上になる B<sub>2</sub>群出自のオスは、表 3 より 3 頭いる（キタネ、ママニー 69、サハニー 70）。図 4 や表 9 の KI、2-3 歳（1973）はそれぞれママニー 69、サハニー 70 にあたると考えられている。キタネは 4-6 歳、ママニー 69 は 4 歳で B<sub>2</sub>群よりいなくなり、1973 年に 3

表9 オスザルがB<sub>2</sub>群を離群した時・年齢・順位とその後の観察

| 個体名   | 離群した年月日              | 離群時の年齢  | 離群時の順位 | 離群後の観察                  |
|-------|----------------------|---------|--------|-------------------------|
| サブ    | 1970.4.14-12.21      | 〈20〉    | 1      | ハナレザルとして+               |
| ジジイ   | 1970.4.14-12.21      | 〈>15〉   | 2      | -                       |
| ボン    | ○1970.2.17           | 〈12〉    |        | ハナレザルとして+               |
|       | ○1970.3.4-4.23       | 〈12〉    |        | ハナレザル、B <sub>2</sub> 群+ |
|       | ○1971.2.25-4.18      | 〈13〉    | 3      | ク、ク+                    |
|       | 1972.1.11-1.13       | 〈15〉    | 4      | -                       |
| モン    | ●1969.11.9-12.19     | 6       | 不明     | -                       |
| ケブカ   | 1973.5.5-12.15       | 〈12-17〉 | 2      | -                       |
| ハギモドキ | 1971.4.18-1972.1.7   | 〈5-6〉   | 6~8    | -                       |
| L     | ●1970.12.21-1971.2   | 〈7〉     | 6~8    | -                       |
| ゴロ    | ●1973.11.5-12.4      | 〈18〉    | 1      | -                       |
| キリ    | ●1969.10.22          | 4       |        | A群+                     |
|       | ●1969.12.4           | 4       |        | ク+                      |
| ハチ    | ○1970.3.8-11         | 6       | 4      | A群+                     |
| モミ    | ○1970.2.17           | 4       | 5      | A群+                     |
|       | ○1971.2.25-4.18      | 5       | 4      | ハナレザル+                  |
| タナ    | ●1970.12.30          | 3       | 不明     | A群+                     |
|       | ○1971.3.22           | 3       | 不明     | ク+                      |
| キタネ   | 1972.11.17-1973.12.4 | 〈4-6〉   | 不明     | -                       |
| KI    | 1973.5.5-12.15       | 〈4〉     |        | -                       |
| D73   | ○1973.4.30-5.5       | 〈10-15〉 | -      | -                       |
| TK    | 1973.12.11-1974.4.11 | 〈8〉     | ?      | -                       |

15頭22例 ○非交尾期 ●交尾期 〈 〉 推定年齢 あり+ なし-

表10 B<sub>2</sub>群を離群したオスの履歴(3歳以上)

|                         | 頭数 | のべ頭数 |
|-------------------------|----|------|
| B <sub>2</sub> 群出自      | 1  | 1    |
| A群出身                    | 5  | 8    |
| A群経過                    | 3  | 6    |
| A群・B <sub>2</sub> 群以外出自 | 5  | 5    |
| 計                       | 14 | 20   |

表11 オスザルのB<sub>2</sub>群からの離群\*の年齢層

| 年齢層     | 例数 |
|---------|----|
| ワカオス    | 11 |
| 若いオトナオス | 2  |
| 成熟オス    | 9  |
| 計       | 22 |

\*死亡も含まれるかもしれない

表12 オスザルのB<sub>2</sub>群からの離群\*の時期

| 年齢層   | 交尾期 | 非交尾期 |
|-------|-----|------|
| ワカオス  | 4   | 4    |
| オトナオス | 2   | 4    |
| 計     | 6   | 8    |

\*死亡も含まれるかもしれない

歳のサハニ-70は12月現在まだB<sub>2</sub>群にいる。B<sub>2</sub>群出自のワカオスが群れからいなくなる年齢は4-6歳で、A群出自のオスがA群を離群する年齢と一致する。

#### (5) 離群のきっかけと行先

離群のきっかけらしいものが分かっているのは、まずサブとジジイである。1970年4月14日、A群1位のオスであったゴロがB<sub>2</sub>群を追いかけ、2群の中心的なオスであったジジイを攻撃したこと、当時サブがB<sub>2</sub>群の1位オスであったこと、その後B<sub>2</sub>群が観察された1970年12月にはゴロが1位になっていて、サブとジジイはいなかったことから、2頭はゴロの攻撃により追出されるか、いづらくなって離群したものと思われる（好廣・常田、1976）。この他、タナの1971年3月22日の離群は、B<sub>2</sub>群がA群に接近した際、A群へ戻ったもの、ポンの1970年2月17日の離群は、人間の持っている餌にひかれてB<sub>2</sub>群を離れたものである。

離群後観察された例は、表9より6頭10例ある。サブは1971年にはハナレザルであった。A群出自のオスがA群に戻ったのが4頭6例ある。あとの3例は、ボンがハナレザルになり（うち2回はモミと一緒に）、再びB<sub>2</sub>群に戻ったものであるが、そのうち1回はハナレザルでいたあと、不明群に同行した（表22）。

A群においても離群して短期間でまた入群することは見られたが、これを何度も繰り返すのはワカオスであり、ボンのようなオトナオスが何度も繰り返すことはなかった。

B<sub>2</sub>群からいなくなって以降観察されていない9頭のうち、A群に同行・入群したものは確実に1頭もおらず、C群への入群が観察されたものもない。死亡したものもあるかもしれないが、多くは横湯川流域の外へ移動したと考えられる。

離群、または死亡時の順位は、表13よりさまざまで、どの順位のオスも離群する。

表13 オスザルがB群を離群した際の順位

| 順位   | 頭数 |
|------|----|
| 1位   | 2  |
| 2-3位 | 3  |
| 4位以下 | 6  |
| 計    | 11 |

#### (6) 短期不在

表3より1973年3月14日に、ボンを含めた4頭のオスが、他個体と違う遊動をしていた。1日より長く持続したかどうかは不明である。

#### (7) 滞在期間と入群率・離群率

滞在時間のわかるものを表14にあげた。1973年12月にB<sub>2</sub>群にいるオスのうち、1969年8月にすでに確実にいたものはハチのみで、他にはワカにその可能性があるだけである。ハチは1969

年4-8月に入群したのだから(表5)、1969年から1973年の4年間で、オスはすべて入れ替わったことになる。オスたちのB<sub>2</sub>群滞在時間はA群の資料、好廣・常田(2011)表18と比べて、短いようだ。

離群・入群が確実に把握できている1969年8月29日から1973年12月15日までの4年4ヶ月間の入群・離群の総数と1年あたりの変化率をまとめてみた(表15)。この表では、入群を何度か繰り返したのも最後の入群と最後の離群のみを勘定している。増加数は、入群数8(入群率1.8頭/年)と、B<sub>2</sub>群で出生して3歳以上に育ったもの $3 + \alpha^{(注1)}$ (0.7頭/年)の計 $11 + \alpha$ (2.5頭/年)である。減少数は、離群と死亡を含めて12-13頭(2.5-2.8頭/年)で、増加率とほぼ同じであった。こうしてB<sub>2</sub>群におけるオトナオスとワカオスの合計は6-9頭程度で、ほぼ平衡している。

表14 B<sub>2</sub>群に滞在した期間

| 個体名   | 同行確認期間(年・月・日)          | 不在確認日<br>(年・月・日) | 同行日数<br>(確認日数～不在確認まで) |
|-------|------------------------|------------------|-----------------------|
| サブ    | 1969.8.29-1970.4.14    | 1970.12.21       | 230-481               |
| ジジイ   | 1969.8.29-1970.4.14    | 1970.12.21       | 230-481               |
| ボン    | 1969.10.16-12.16       | 1970.2.18        | 58-                   |
|       | 1970.3.3-4             | 1970.3.14        | 2-                    |
|       | 1970.12.20-1971.2.25   | 1971.4.8         | 71-                   |
|       | 1972.1.7-11            | 1972.11.13       | 5-                    |
| モン    | 1969.8.28-11.9         | 1970.12.20       | 73-                   |
| ケブカ   | 1969.12.16-1973.1.24   | 1973.5.          |                       |
| L     | 1970.12.20-22          | 1971.2.25        | 4                     |
| ゴロ    | 1970.12.21-1973.11.5   | 1973.12.4        |                       |
| ハギモドキ | 1970.12.21-1971.4.20   | 1972.1.7         |                       |
| D73   | 1973.4.28              | 1973.12.4        | 1                     |
| KI    | 1973.4.28              |                  |                       |
| TK    | 1973.12.4-15           |                  |                       |
| ワカ    | 1970.12.21-1973.12.15+ | -                |                       |
| タナ    | 1972.1.7-1973.12.15+   | -                |                       |
| キタネ   | 1971.4.18-1972.11.17   | 1973.1.24        |                       |

同行継続中+ 不在確認なし-

表15 B<sub>2</sub>群におけるオスの変化と変化率(1969年8月29日-1973年12月15日)

|         | 総数            | 変化率(頭/年) |
|---------|---------------|----------|
| 離群または死亡 | 12-11         | 2.5-2.8  |
| 入群      | 8             | 1.8      |
| 成長(*)   | $3 + \alpha$  | 0.7+     |
| 入群+成長   | $11 + \alpha$ | 2.5+     |

(\*) B<sub>2</sub>群で生まれて3歳以上に育ったもの  
 $\alpha \leq$ と考えられる

(注1)  $\alpha \leq 1$  だろう

## 6. C 群

表16に、C 群の観察のうちオスを個体識別した例をすべてあげ、識別したオスの数と個体名を示した。この表からオスの構成は表17の様であり、個体ごとの去就を整理すると図6のようになる。これから、C 群に関係してきた1973年7月31日時点で3歳以上のオスの数は33頭である。

表16 C 群におけるオスの個体識別例（1969.8.29－1973.12.31）

| 観察日        | 観察場所    | 観察個体数 | 識別されたオス（推定年齢）                                                                                           | 観察者   |
|------------|---------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 1969.11.10 | 水源－仏岩   | 17    | ナナ、ジイサン、ニラミ、ヤサシ、シイ、シガ<br>No6(4-5)、W69(4、ハギににる)                                                          | 常田    |
| 1970.5.8   |         | 約15   | シガ                                                                                                      | 右高    |
| 5.10       |         | 7+    | ジイサン、ニラミ、シガ、ヤサシ、シイ、No6<br>S70(モンににる)                                                                    | 常田    |
| 11.16      | 水源      | 12    | ナナ、ジイサン、Ad、ニラミ<br>シガ、シイ、T79(アカ、ごろににる。毛はデレンににる。)                                                         | 常田    |
| 1971.2.18  |         | 21    | ヤサシ、シガ、ナナ、他に3匹                                                                                          | 常田    |
| 4.16       |         |       | Ad、Ad、Ad、Ad 中、ノリヨシ、シガ                                                                                   | 好廣    |
| 4.18       |         |       | シガ、ノリヨシ、タナににたの(ヤサシ?)                                                                                    | 〃     |
| 4.19       |         |       | ヤサシ?、ニラミ?、ゴン?(デレンににる)、シガ<br>シイ、アニキ、コグロ、ノリヨシ                                                             | 〃     |
| 4.19       |         |       | シガ、ニケン、シイ、ヤサシ?(ミツクチをふっくらした)<br>ワカオス、ノリヨシ、(ジイサンいない)                                                      | 常田    |
| 4.20       | 水源      |       | シガ、ノリヨシ                                                                                                 | 好廣    |
| 4.23       | 落合      | 7     | L71、シガ、ゴン?                                                                                              | 〃     |
| 4.24       | 水道二又    | 20    | シガ                                                                                                      | 〃     |
| 4.25       |         |       | ヤサシ、シガ、ニケン、アニキ、ジイサン?<br>コグロ、ノリヨシ、ゴン? ナナ?                                                                | 〃     |
| 4.26       |         | 34-35 | ゴン、ヤサシ、シガ、シイ、コグロ                                                                                        | 常田・好廣 |
| 4.27       |         | 6     | ナナ、ジイサン、ヤサシ、シガ、アニキ、コグロ、ノリヨシ                                                                             |       |
| 5.5        |         |       | シガ、Ad、Ad                                                                                                |       |
| 5.6        |         |       | シイ?                                                                                                     |       |
| 1972.9.29  | 一の沢二の沢  |       | ニラミ、シガ、コグロ                                                                                              | 常田    |
| 10.3       |         |       | モナ                                                                                                      | 〃     |
| 11.13      | アーチダム   | 32    | L72(>11)、L72a(10-15)、L72b(10-12)、♂(6-7)<br>モナ、タンゴ、♂(3)、Ad(ハナレザル)<br>(カボニ、ニラミ?、シガ、ゴン、ヤサシ、アニキ、コグロ、サンバいない) | 常田・好廣 |
| 12.22      | 抱石東     |       | L72、ヤサシ、ニラミ、コグロ、Ad(9)、Ad(8)                                                                             | 常田    |
| 23         |         |       | タンゴ                                                                                                     |       |
| 1973.1.1   | 二の沢大ガレ  | 30    | カボニ、ヤサシ、アニキ? コグロ、タンゴ、サンバ                                                                                | 好廣・常田 |
| 2.28       |         | 10    | ヤサシ、Ad(10)、ワカオス(5-6)、ワカオス(4-5)、ワカ<br>オス(4)、L72らしい<br>コグロ、タンゴ、サンバ、Ad(コグロににる)                             | 常田    |
| 4.14       | 文六      |       | モナ、タンゴ、サンバ                                                                                              | 油田    |
| 4.27       | 水源－出鼻   | 22    | Ad、Ad、ヤサシ、モナ、サンバ、タンゴ                                                                                    | 好廣    |
| 4.28       | 二又      | 5     | Ad(かなつば眼)、Ad(どんぐり眼)、コグロ、タンゴ                                                                             | 〃     |
| 5.1        | 水源      | 18    | ゴン、ヤサシ、タンゴ、サンバ                                                                                          | 〃     |
| 5.4        | HC 落合下流 | 9     | Ad、シイ、コグロ、モナ?                                                                                           | 〃     |
| 5.5        | 〃       | 17    | Ad、ニケン、アニキ?、コグロ、サンバ                                                                                     | 〃     |
| 5.6        | 〃       | 17    | ゴン、ニケン、モナ、タンゴ、サンバ、ワカオス(3-4)                                                                             | 〃     |

表17 C群のオスの数と構成

| 観察日         | 観察者   | 年齢層           |                   |              |       |
|-------------|-------|---------------|-------------------|--------------|-------|
|             |       | ワカオス<br>(3-6) | 若いオトナオス<br>(7-10) | 成オス<br>(≥11) | 計     |
| 1969.11.10  | 常田    | 2             | 3                 | 3            | 8     |
| 1970.5.10   | 常田    | 1             | 4                 | 2 (1)        | 7     |
| 11.16       | 常田    | 1             | 2                 | 3 (1)        | 7     |
| 1971.2.18   | 常田    |               | 2                 | 1            | 6+    |
| 2.19        | 好廣    | 1             | 5                 | 2 (1)        | 8     |
| ○4.16-5.6   | 好廣・常田 | 1             | 5                 | 4 (1)        | 10    |
| ○1972.11.13 | 好廣・常田 | 3             | 1                 | 3            | 8     |
| 12.22       | 常田    | 0             | 4                 | 2            | 6+    |
| 1973.1.1    | 好廣    | 2             | 3                 | 1            | 6+    |
| ○4.27-5.6   | 好廣    | 4             | 2                 | 5~6          | 11~12 |

○全数観察されたもの。他は一部見落とされている可能性が高い。

表18 C群に関係したオス

|             |       |
|-------------|-------|
| A群出身        | 6 (1) |
| 出身群不明       | 11    |
| 個体識別の不確実なもの | *16   |
| 計           | 33    |

( ) そのうち接近のみのものの数

\*重複の可能性あり

るが、個体識別の不確実なものには重複の可能性がある(表18)。

内訳は、A群出身のもので6頭(入群5、接近1)、他は出身群不明で、個体識別の不十分なものもいる。

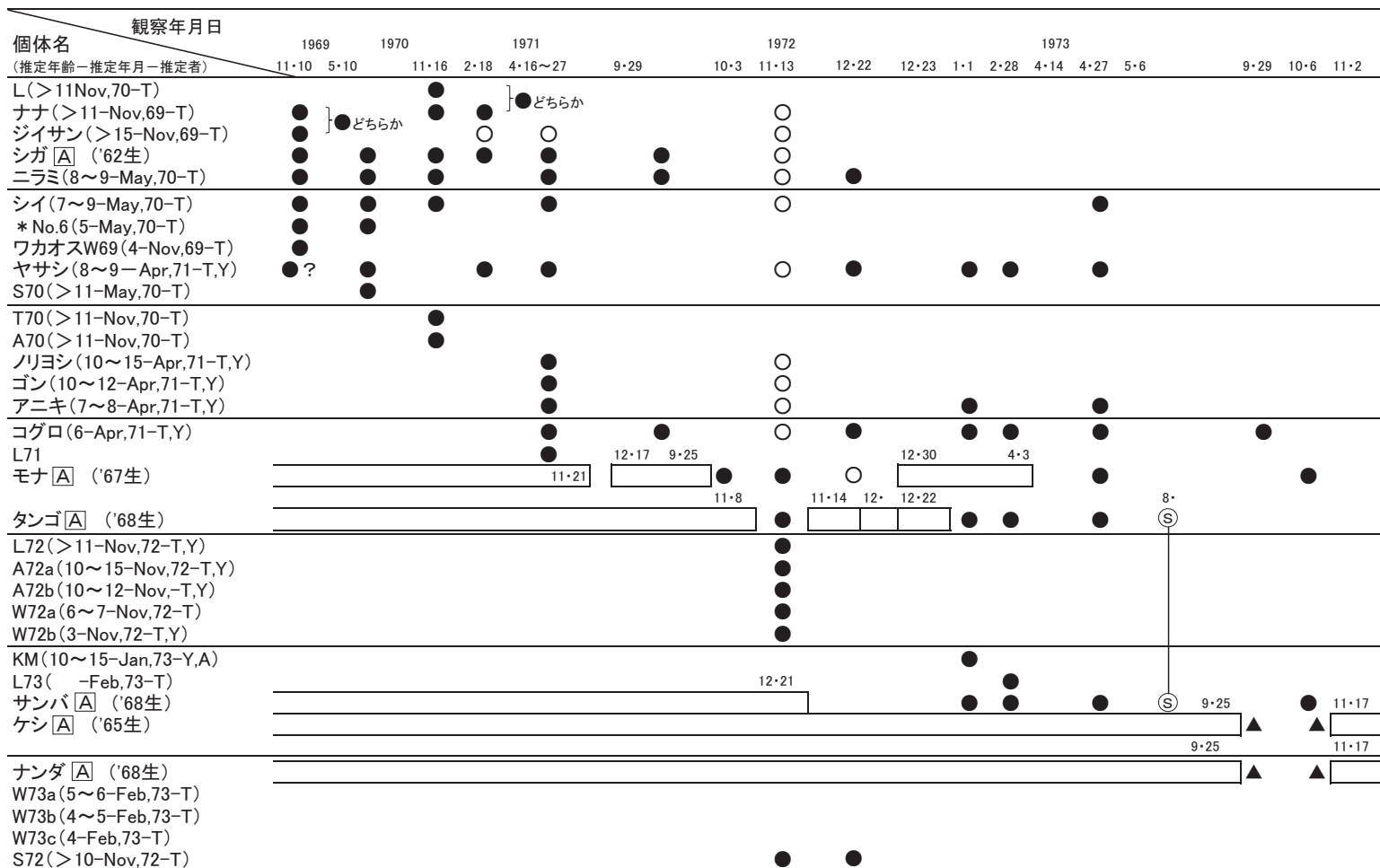
### (1) 入群・同行したオス

C群への入群が確認されたのは、A群出身のシガ、タンゴ、サンバ、モナ、ナンダのみである。彼らに加えて、1972年11月13日に見られた、L72、2頭のオトナオスA72aとA72b、ワカオスW72a(6-7)は(表16、図5)、1969年から1971年にC群で観察されたどのオスとも異なり、1971年4月以降入群しはじめたのではないと思われる。

入群・同行した時期の分かるものを表19にあげ、入群・同行時の年齢を付け加えておく。

### (2) 入群・同行・接近したオスと群れのオスの関係

表20に、入群直後のオス、および接近したオスと、群れの関係についての観察例を示す。



\* アニキかコグロと同一個体かもしれない (1) A群出身個体は生年を記す [A] A群出身 T: 常田 Y: 好廣 A: 油田  
 ● C群中にある ○ C群中にいない □ A群にいる ▲ C群に接近 ⑤ ハナレザルでいるのを観察 | 一緒に行動

図6 C群の個体識別されたオスサルの観察例

表19 C群へ入群・同行した時期と年齢

| 個体名  | 年月日                 | 年齢    |
|------|---------------------|-------|
| モナ   | ●1972.9.25-10.3     | 5     |
|      | ○1973.4.3-4.27      | 5     |
| タンゴ  | ●1972.11.8-11.3     | 4     |
|      | ● ♀ .12.21-12.23    | 4     |
| サンバ  | ●1972.12.21-12.23   | 4     |
| ナンダ  | ●1973.9.29          | 5     |
| L72  | } 1971.4-1972.11.13 | >11   |
| L72a |                     | 10-15 |
| A72b |                     | 10-12 |
| W72a |                     | 5-7   |

●交尾期      ○非交尾期

表20 C群に入群・接近・同行したサルの行動とサルの反応

| 個体名<br>(年齢)     | 観察年月日          | 接近しはじめ<br>てからの日数 | 行動                               | C群のサルの反応  |
|-----------------|----------------|------------------|----------------------------------|-----------|
| 入群したもの          |                |                  |                                  |           |
| モナ (5)          | 1972.9.3       | 8                | ○オスたちにくっついて歩く                    | とくになし     |
| タンゴ (4)         | 1972.11.13     | 5                | ♀                                | ♀         |
| ♀ (4)           | 1972.12.23     | 2                | ♀                                | ♀         |
| サンバ (4)         | ♀              | 2                | ♀                                | ♀         |
| ナンダ (5)         | 1973.9.29      | 4                | ♀                                | ♀         |
| 接近・同行したもの       |                |                  |                                  |           |
| ノリヨシ<br>(10-15) | 1971.4.16-27   |                  | ●毛をたて尾をあげて接近<br>のち尾を下ろしオスたちの側を遊動 | シガがないておこる |
| ケシ (8)          | 1973.9.29、11.2 |                  | ●毛をたて尾をあげて接近                     |           |

○従順的      ●威圧的

ワカオスは、すべて従順的で、入群し、メスから離れてオスたちのそばにいる。群れのオスからの攻撃は観察されなかった。

威圧的接近をしたのはすべてオトナオスで、彼らは群れの攻撃をうけている。しかしこれも、非交尾期に接近したノリヨシの場合は、時に音声による威嚇を受ける程度で、下位のオスたちに連れ添って遊動していた。ノリヨシの方も尾を立てる以外に群れのサルを威嚇する行動を見せなかった。接近したオスがついていく気さえあれば、容易に同行できると思われる。

### (3) 離群

図5より、C群から離群が確認されたオスの離群時期を推定したのが表21である。6頭のう

表21 C群からの離群\*の時期と年齢

| 個体名  | 年月日                  | 年齢    |
|------|----------------------|-------|
| ナナ   | 1971.4.25-1972.9     | >11   |
| ジイサン | 1970.5.10-1970.11.16 | >15   |
| シガ   | B1972.9.-1972.11.13  | 10    |
| ニラミ  | 1972.12.22-          | 10-11 |
| コグロ  | B1973.9.29-1973.10.4 | 8     |
| アニキ  | 1973.1.1-            | 9-10  |

B 交尾期

\* 死亡も含まれる可能性あり

ち 2 頭は交尾期に離群している。他の 4 頭は交尾期か非交尾期か分からない。離群の年齢ではワカオス（3-6 歳）はおらず、若いオトナオス（7-10 歳）が 3 頭、成熟したオトナオス（11 歳以上）が 3 頭である。

C 群出自オスの離群については個体識別ができていないため、離群数、年齢など不明である。

#### (4) A 群出身オスの順位と行動

シガは、1971 年 4-5 月にはノリヨシ（短期間同行）を除く 9 頭の C 群オスのうち 4-5 位を占めていた。彼は 9 歳で、6-10 歳の年齢層のオスが 6 頭いるうち 2-3 番目に優位であった。これらのオスたちはメスたちから離れて誘導していた。A 群、および B<sub>2</sub> 群では、群れ外から新しく入群したオスほど下位であり、A 群出自のオスは、6 歳までにほぼすべて離群する。この原則が C 群にもあてはまるのなら、シガよりも下位のゴン、ヤサシ、アニキ、コグロは、シガよりもあとに C 群へ入群した可能性が高い。

タンゴ、サンバ、モナは、1973 年 12 月現在、いずれも下位のオスである。3 頭はメスやコードモのあつまりとは離れており、オスたちと一緒にいることが多い。その中でもこの 3 頭はしばしば近くにいる。

とくにタンゴとサンバはそばにいたり、共同して行動することが多かった。2 頭は同年生まれで、おい・おじの関係にあり（タンゴの母はサンバの姉）、A 群中でもよく一緒に行動した。2 頭は、1973 年 8 月に C 群を離れ、車道ばたで通行者にものごいする乞食となった。サンバは右手と左足に大ケガをして（後に右手首は脱落）歩行困難であった。サンバが C 群の遊動について行けずに離群し、タンゴが彼のそばに残ったのであろう。

C 群に入ってからモナ、タンゴ、サンバの間に見られた関係は、同じ群れで育ったという経歴の共通性が、生まれた群れを離れ別の群れに入っても個体を結びつける働きを示している。

#### (5) 短期不在からの戻り易さ

図 5 より、1972 年 11 月 13 日に観察したオスたちの顔ぶれは、その前後に C 群で観察したオス

たちと大きく異なっていた（表16）。見通しのよい川を群れが横切るという条件下で、遊動を共にする全個体を把握したにもかかわらず、ニラミ、シガ、ゴン、ヤサシ、アニキ、コグロ、サンバの7頭はいなかった。このうちサンバを除く6頭は、1971年4-5月にC群中で観察し、そのうちニラミとコグロは1972年1月3日にもC群で観察している。また1972年11月13日のひと半月後の12月22日、1973年1月1日には、ニラミ、ヤサシ、コグロ、サンバを、C群中で観察している。これら7頭のオスは、1972年11月13日前後の一定期間C群を離れて行動し、のちC群に戻ったと考えられる。オスの短期不在は、A群、B<sub>2</sub>群でも見られているが、このように多くのオスが時期をほぼ同じくして離群・入群した例はA群、B<sub>2</sub>群では他にない。

タンゴとサンバも、1973年8月にはC群を離れていたが、10月以降戻った。

これらのオスがC群に戻ってきたこと、とくにワカオスだけでなく8-13歳のオトナオスも戻ってきたことは、A群に比べて短期不在から群れへ戻り易いことを示している。

## 7. A群、B<sub>2</sub>群、C群以外の群れ

表22に、1969年8月29日以降、A、B<sub>2</sub>、C群以外の群れにおいてオスが個体識別された例をあげる。

ポパイはB<sub>1</sub>群でかなり高位のようであった。

ボンとデレンは、1970年4月23日に、A、B<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、C群のいずれともちがう群れで観察されたが、その1-2ヶ月前までそれぞれB<sub>2</sub>群とA群にいた。この群れを鈴木他（1975）、鈴木（1976）ではB群から分裂したB<sub>3</sub>群と推定している。2頭はこの群れには短期同行しただけで、ボンは5月にハナレザルとして発見され、デレンに似たサルが常田により1971年1月9日松川流域の群れで発見されている。

## 8. ハナレザルおよびオスグループ

表23に横湯川流域で観察された群れ外のオスザルの例をあげた。23例のうち、1頭だけのハナレザルが10例、2頭のオスグループが5例、3頭以上のオスグループが8例、記録された最も個体数の多いオスグループは5頭よりなり、1例だけ観察された。

ただし、群れと違って、観察されても記録されなかった例が多い。ハナレザルおよびオスグループの実数はこれより多い。

A群の餌場にA群が不在のとき、ハナレザルまたはオスグループがやってくる例は、表23に

表22 その他の群れにおける個体識別例（1969.8.29-1973.12.31）

| 群れ             | 観察日       | 観察場所   | 観察個体数 | 識別されたオス       | 観察者   |
|----------------|-----------|--------|-------|---------------|-------|
| B <sub>1</sub> | 1969.11.8 | 出合下流ガケ | 45    | ポパイ           | 常田    |
| 〃              | 11.18     | 〃      |       | ポパイ           | 常田、好廣 |
| 〃              | 11.19     | 落合     |       | ポパイ、Ad（ハナレザル） | 常田    |
| 不明群*           | 1970.4.23 | 二又     | 19    | デレン、ボン        | 〃     |

\* A、B<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、Cのいずれでもない群れ

表23 横湯川流域における群れ外でのオスの観察例（1966.4－1973.12）

| 観察日           | 観察場所         | 情報源   | 観察個体数 | 識別された個体（推定年齢）     | 情報収集者 |
|---------------|--------------|-------|-------|-------------------|-------|
| 1966.4.14     | カラ沢          | 目視    | 2     | ムサシ、クロ            | 山本    |
| 9.29          | 餌場南          | 〃     | 1     | シガ                | 〃     |
| 1967.1-3      | 渋            | 聞取    | 3     | 1頭はムサシらしい         | 常田    |
| 1968.2.4-6    | 金倉林道竜王沢ヒノオネ間 | 足跡    | 3     |                   | 〃     |
| 3.9-2         | 渋上林          | 聞取・足跡 | 4-6   |                   | 〃     |
| (1968) 6.30   | 餌場           | 目視    | 4     | エイ、デレン、モン、ハチ      | 〃     |
|               |              | 〃     | 2     | サブ、ムーチョ           | 〃     |
| 3.27          | カラ沢口         | 目視    | 3-4   |                   | 〃     |
| 1969.3.22     | アーチダム        | 〃     | 1     |                   | 〃     |
| 1970.3.14     | クロフの沢左岸      | 足跡    | 2     |                   | 好廣    |
| 7.12          | 餌場           | 目視    | 1     | メッカチ              | 常田    |
| 8.10or11      | 天川           | 聞取    | 5     |                   | 〃     |
| 1971.3.20-4.7 | 〃            | 〃     | 3-4   |                   | 好廣    |
| 4.8-9         | 〃            | 〃     | 1     |                   | 〃     |
| 4.10-12       | 上林 天川        | 目視    | 1     | サブ                | 好廣、常田 |
| 4.12-13       | 天川上流         | 〃     | 1     | ノリヨシ              | 常田、好廣 |
| 4.20          | 天川           | 聞取    | 1     |                   | 好廣    |
| 4.24          | 出鼻           | 目視    | 1     | ♂（7-10）           | 〃     |
| 4.27          | 第1タンク        | 〃     | 2     | エックス69、ケライ        | 常田    |
| 5.3           | アーチダム        | 〃     | 2     | ボン、モミ             | 〃     |
| 1973.4.25     | 抱石上流         | 〃     | 1     | Ad                | 好廣    |
| 7.26-8.8      | 河原小屋一蓮池      | 目視・聞取 | 3     | タンゴ、サンバ、Ad(8.2観察) | 〃     |
| 11.7-8        | 渋 安代         | 聞取    | 1     | Ad                | 〃     |

は2例のみあげてある。しかし、記載されなかつただけで、こうした例は他にも多数観察された。

表23の識別された個体の資料からは、オスグループは同じ群れですごした顔なじみの集り、または顔なじみが一緒に離群したものと考えられる。

## 9. 野生群に接近・同行・入群したオスと、群れオスとの関係—A群との違い

餌付けされたA群と野生群との目立つ違いは、オスザルの同行・入群のしやすさで、とりわけワカオスに著しい。A群ではオトナオスは毎年同行・入群しているが、3-6歳のワカオスは、1963-73年の間、1頭も入群しなかった（好廣・常田、2012）。

1976年12月になってはじめて、8歳のコグロ（C群出自）が入群したのが最年少である。これに対して、B<sub>2</sub>群とC群では、表8あるいは表20に見るように、多くのA群出自のワカオスが群れオスの近くを遊動し、群れオスから攻撃された例は見られなかった。餌場は、うまい餌が

常時ある特意な場所で群れ間の排他性が強く（常田、1981）、A群のオスたちが入群、再入群を防いだと思われる。

## 謝辞

志賀A群の詳細な記録に加え、野生群の観察例の利用を許可していただき、公苑施設を利用させていただいた、原莊悟地獄谷野猿公苑苑長はじめ、公苑職員の方々に、厚く御礼申し上げます。和田一雄博士（京都大学霊長類研究所より東京農工大学）と山本教雄氏（上信越自然史博物館）は、常に論文化するよう叱咤激励、援助していただいた。伊谷純一郎教授、池田次郎教授はじめ自然人類学研究所の方々には好廣の報告を議論し助言していただいた。上西実氏には図を作っていただいた。貴重な資料を託していただきながら、好廣の怠慢により論文化が著しく遅くなってしまったことをお詫びしたい。とりわけ、山本教雄氏との約束を果せず、生前に論文にできなかった。前号と合わせて墓前に供えたい。

## 参考文献

- 岡安直比「妹」の力——野生ニホンザル社会におけるメスの役割 西田利貞、伊沢紘生、加納隆至編『サル  
文化誌』平凡社：455-595.
- 佐藤俊 1977「ニホンザルオスの生活様式：白山カムリA群における事例研究」加藤泰安、中尾佐助、梅棹忠  
男編『形質 進化 霊長類』中央公論社：275-310.
- 杉山幸丸、大沢秀行 1974「霊仙山に生息するニホンザルの個体群動態(2)」和田、東、杉山編『オスの生活史』  
京都大学霊長類研究所：55-62.
- 杉山幸丸、大沢秀行、西邨顕達、増井憲一 1977「ポピュレーション・センサス（個体数調査）による高崎山  
生息ニホンザルの個体群動態」『高崎山ニホンザル調査報告——1971年-1976年』大分市、pp.5-18.
- 鈴木晃 1976 霊長類社会の多様性 ホミニゼーション研究会編『別冊サイエンス 特集 動物社会学 サルから  
ヒトへ』：22-35.
- 鈴木晃、和田一雄、好廣眞一、常田英士、原莊吾、油田よしこ 1975「横湯川流域に生息するニホンザルの個  
体群動態と群れの動態」『生理生態』16(1)：15-23.
- 常田英士 1973「志賀高原ニホンザルA群の歴史と現況」第2回ニホンザルの現況研究会報告書
- 常田英士 1980「ニホンザル志賀A群の分裂」『動物と自然』10(1)：26-30.
- 常田英士 1981「ニホンザルの社会生活——志賀A群の分裂を追う」『モンキー』(178)：6-14.
- 常田英士、和田一雄 1974「志賀A群を中心にしたオスの離群、入群過程」和田一雄・東滋・杉山幸丸編『オス  
の生活史』京都大学霊長類研究所：28-34.
- 常田英士、原莊吾 1975「志賀A群の餌付けと行動の記録」『生理生態』16(1)：8-14.
- 乗越皓司 1976「ニホンザル」ホミニゼーション研究会編『別冊サイエンス 特集動物社会学 サルからヒト  
へ』：53-61.
- 乗越皓司 1977「嵐山におけるニホンザルオスの転出入の動態と群れの社会構造について」加藤泰安ほか編『形  
質・進化・霊長類』中央公論社、pp.335-370.
- 原莊悟 1971『ただいま入浴中—野猿物語』信濃路 東京 農山漁村文化協会
- 山極寿一 1986「ヤクザルの社会構造とオスの繁殖戦略」丸橋珠樹ほか編『屋久島の野生ニホンザル』東海大学  
出版会、pp.60-125.
- Yoshihiro Shinichi「Ecological Adaptations of Japanese Monkeys (*Macaca fuscata*) to a Snowy Habitat」T,  
Kawamichi (ed.)『Contemporary mammalogg in China and Japan』：pp51-56.
- 好廣眞一・常田英士 1976「志賀高原のニホンザルI 横湯川流域におけるオスザルの離群と加群（その1）」『に  
ほんざる』(2)：1-50.

- 好廣眞一・常田英士「志賀高原のニホンザルⅡ 横湯川流域におけるオスザルの離群と入群（その2） 志賀 A 群をめぐるオスザルの動態」『龍谷紀要』33(1): 45-75.
- 和田一雄 1964「志賀高原のニホンザル——積雪期の生態」『生理生態』12: 151-174.
- 和田一雄 1979『野生ニホンザルの世界——志賀高原を中心とした生態』講談社 pp258.
- 和田一雄 1994『サルはどのように冬を越すか——野生ニホンザルの生態と保護』農山漁林文化協会 pp226.
- Wada Kazuo & Eishi Tokida 1981「Habitat Utilization by Wintering Japanese Monkeys (*Macaca fuscata*) in the Shiga Heights」『PRIMATES』22(3): 330-348.
- Wada Kazuo & Yoshiko Ichiki 1980「Seasonal Home Range Use by Japanese Monkeys in the Snowy Shiga Heights」『PRIMATES』21(4): 468-483.